

部 会 報 告

ISO/TC 127/SC 2/WG 26 (ISO 10968 土工機械—操縦装置) 2017年2月ドイツ・フランクフルト 国際作業グループ会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家 (Expert) 間宮 崇幸 (コマツ)

国際標準化機構 ISO の専門委員会 TC 127 (土工機械) 傘下の国際作業グループ ISO/TC 127/SC 2/WG 26 (ISO 10968 土工機械—操縦装置改正) 作業グループ会議が 2017 年 2 月にドイツ国フランクフルト市で開催され、前回 2016 年 10 月に引き続き、協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会から国際専門家 (Expert) として出席した間宮崇幸氏の報告を紹介する。

1 開催日：2017 年 2 月 6-7 日

2 開催地：ドイツ フランクフルト VDMA 近郊
ATRICOM Sachsenhausen 会議室

3 出席者：13 名 (うち WebEx 接続 3 名)

スウェーデン (SIS) 3 名

米国 (ANSI) 2 名

英国 (BSI) 1 名

ドイツ (DIN) 2 名

イタリア (UNI) 1 名

チェコ (UNMZ) 1 名

日本 (JISC) 3 名

4 概要

- ・日本のみ反対で承認された CD 投票時に寄せられた各国コメント (全 68 件, うち日本コメント 22 件) を審議した。
- ・日本からの提案のうち、油圧ショベルのブレードについては、ドーザの附属書 E でなくアタッチメントの附属書 B で New B.8 ブレードコントロールとして取りまとめることになった。
- ・今回の審議結果と専門家への回覧結果をもとに、今後 DIS 投票に進む。

5 主な審議内容

- 1) 第 3 章 用語の定義について、スタイルと機能等が混在していたので、階層構造に従って再整理した。“pedal”を追加、“treadle pedal (dual function pedal)”の定義追加は却下、“proportional control”の定義文言を変更、“multipurpose”を“multifunctional”に統一した。
- 2) 表 1 操縦装置間隔について、同時に操作せず

同一足で踵をつけて行う足踏み式は、最小間隔 30 mm でもよいとの例外規定を維持した。さらに、スクレーパのツインエンジンのような、同一足で同時に並行する 2 つのペダルを操作する際の規定を追加した。

- 3) 6.4 操作力の強度下限値について、既にこれまでの WG で議論した結果として反対し、変更されないことになった。また、他の ISO (ISO 5010 ステアリング) で許容強度は最大強度の 2 倍との記載があり、ISO 10968 と整合しないとの指摘があった。ISO 5010 第 2 次 CD 投票時に、ISO 10968 の記載のように文言を変更する予定。
- 4) 表 2 操縦装置操作力について、通常力 (頻繁な操作) と最小力を再記載すべきとの提案に反対し、CD 投票時の最大値のみ記載のままとなった。理由は、これまで WG で議論したように、通常力の頻繁とはどのように規定したらいいか不明であること、最小力はマシンタイプにより異なり一様に規定できないため。
- 5) 油圧ショベルのブレード操作方法について追加した。ただし、日本提案は Annex E への追加であったが、Annex E はドーザについてのみのため、Annex E への追加は却下された。追加箇所は、Annex B アタッチメントに新たに B.8 ブレードコントロールの項目を設け、CD 投票時の日本コメントを反映させた。油圧ショベルのブレードは全世界で使われているため、今後、B.8 文章をベースに DIS 投票コメントで各社の操作方法を反映させる予定。
- 6) Annex 記載の操作方法のうち、他方法の追加および変更提案について、一本レバーのスキッドステアローダの操作方法を追加し、油圧ショベルの前進後進時のクローラ相対速度での記載に変更した。日本提案の一部は、5.1.6 項「Annex に記載の項目はあくまでも典型的な形式、位置、操作方法である」ことから、典型的でないとして却下された。

6 日本への宿題事項

- ・DIS 投票用の Annex の図を指定のフォーマットで用意し、2017 年 4 月までに送付する。
- ・今回の WG 会議結果を反映させた文章 (N60) の内容を確認し、Editorial/Technical コメントを WG26 事務局に送付する。
Editorial は DIS 投票用文章に反映させるため、なるべく現段階でコメントする。
- ・特に、油圧ショベルのブレード操作方法を確認する。その際、説明用の絵が必要であれば準備し、WG26 事務局に送付する。

7 今後のスケジュール

- ・2017 年 3 月まで 専門家は、ISO 改正文章 (N60) の内容を確認し、Editorial と Technical を明記し WG26 事務局へ回答する。
 - ・2017 年 4 月まで 日本は、DIS 投票用の図を作成する。
 - ・2017 年 4 月まで WG26 事務局は、上記 2 点 (Technical コメントは DIS 投票後の WG で議論) を反映させた DIS 投票用案文 (N62) を作成する。
 - ・2017 年 6 月まで DIS 投票開始、投票期間 20 週。
 - ・2018 年 6 月 ISO 発行 (前回から変更なし)。
- 次回 WG：2017 年 10 月の 2 日間、スウェーデン
ストックホルム SIS の予定。

8 所感

今回、日本からの英文コメントは文章が長く、海外の委員になかなか意図が伝わらなかったケースが散見された。ISO 16001 コンビナーとしての経験からも、英文コメントは

- ・シンプルかつ箇条書きに
 - ・Proposed change の欄に具体的な提案を記入し
 - ・一つの欄に異なるトピックスを盛り込まない
- 様に記載されると、取り違えなくスムーズに進行すると感じた。

については、各コメント提出者は上記 3 点に則り、きちんと和英案文をつけた提案が必要と感じた。

参考資料

N49：CD 投票時の改正案文

N56：CD 投票時の各国コメント

N57：今回 WG 会議の議事案

N58：今回 WG 会議の議事録、決議

※今後追加されられると思われるもの

N59：各国コメントへの WG 会議での議論結果 (N56 の差し替え)

N60：WG 会議結果を盛り込んだ改正案文 (N49 の差し替え)

N61：WG 会議参加者リスト

N62：専門家からの回答 (Editorial 分と新しい図) を反映した DIS 投票用の改正案文 (N60 の差し替え)